

ICTを活用した檻・罠の遠隔監視・操作システム「クラウドまるみえホカクン」

クラウドを介して複数人で檻・罠の監視・操作をすることで多頭捕獲を実現するシステム

研究開発の背景

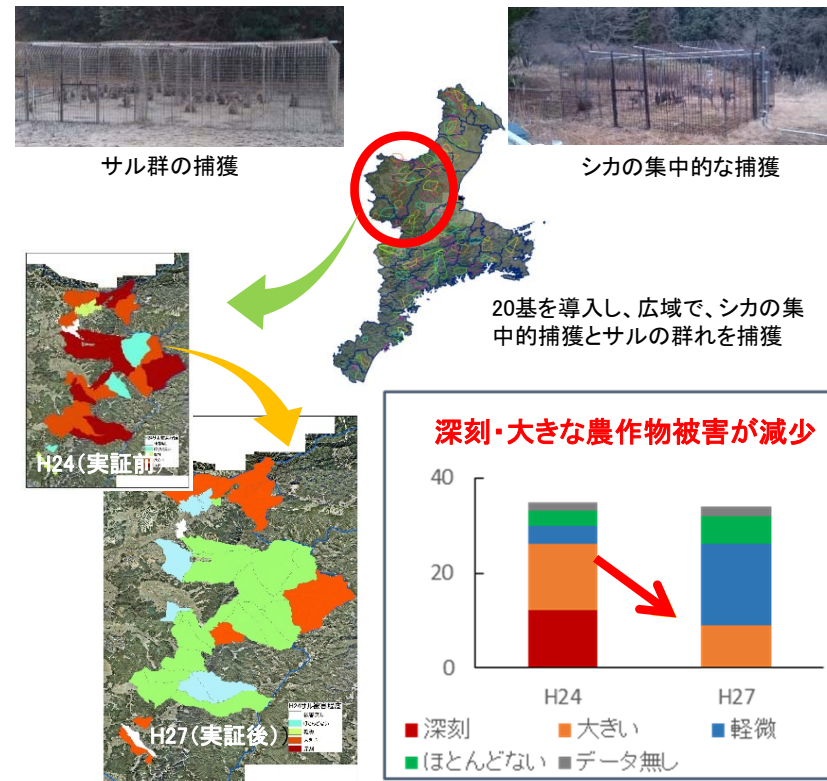
- ・イノシシ、シカの防護柵やサルなどの組織的な追い払い等、有効な被害対策技術が普及する地域では被害も軽減している一方で、シカの高密度地域やサルの多頭群生息地域などの通常の被害対策が困難な地域も増加している。
- ・被害対策と併行した集中的捕獲が重要だが、取り逃がすことなく、確実に多頭捕獲可能なシステムが必要となっている。

研究成果の内容

クラウド上で檻の情報を共有し、スマホ等で遠隔管理と操作が可能な技術



遠隔操作で確実な多頭捕獲を実現



期待される効果

- ・地域で連携して複数の檻・罠管理ができ、情報共有により管理者の技術向上が可能。
- ・被害対策と併せ集中的な個体数管理を進めることで、地域の被害軽減に貢献。

開発機関: 三重県農業研究所、鳥羽商船高等専門学校、(株)アイエスイー、予算区分【攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業】

導入をオススメする対象
 獣害が多発する都道府県、市町村、獣害対策協議会等